

2021年度 事業報告書

特定非営利活動法人 アジアキリスト教教育基金

1 事業の成果

2021年度も、前年度に引き続き世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大により活動に制限がある中で、オンライン等で国際理解促進、啓発活動を継続した。一方で、バングラデシュの初等教育支援については、2021年9月まで休校が続き、その後の感染再拡大により2022年1月から2月まで再度全国一斉休校となり、2022年3月になってようやく通常再開した。休校中も再開後も6地区43校の約4,000人の児童と教師167名の支援を行った。また、コロナ禍の影響で中学校進学が困難な卒業生80人に奨学金を給付した。コロナ禍でも職業訓練校は縮小しながら運営を継続した。また、昨年度から支援を始めたカウンターパートが実施する約2000人が受益者のマイクロファイナンスについても貯蓄と融資を継続し、女性たちが起業して生計向上と教育支援に貢献している。このマイクロファイナンスの原資ために2回のクラウドファンディングによる寄附集めを行い、助成金による能力強化も行った。現地での教師研修は、指定寄附により資金的に支援し、コロナ禍で規模を縮小して1地区で実施された。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用 33,048 千円)

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
アジアの開発途上国への教育支援事業	バングラデシュの初等教育支援	通年	バングラデシュ各地	167人	小学校43校の在籍者	約4,000人	2,766
	職業訓練校支援	通年	3地区	7人	職業訓練生	51人	3,512
	マイクロファイナンス支援	通年	バングラデシュ各地	21人	マイクロファイナンス・グループメンバー	1,956人	185
	教師研修実施	1月	ネトロナ	5人	BDP教師	10人	23,550
	中学校進学奨学金給付	3月	バングラデシュ各地	16人	小学校の卒業生・中学校進学生徒	80人	600
国際協力への理解、参加を促進するための事業	アジアの開発途上国に関する国際協力の理解についての講演会、セミナー、シンポジウムなどの開催事業	5月 10月 11月 12月 1月 2月 3月	東京/オンライン	9人	国内の一般市民 セミナー・勉強会参加者	3,800人	1,343
アジアの開発途上国に関する普及、啓発事業	メールニュースの発行 SNSでの情報発信	通年	オンライン	10人	会員・寄附者一般市民	3,000人以上	436
	バングラデシュで作られた手工芸品の紹介、提供	通年	日本各地	9人	国内一般市民バザー参加者	-	656